

バレーボールのルール改正における功罪の検討

A Study on the Examination of the Merits and Demerits in Rule Revision of Volleyball

1K03A201-3

氏名 松永健太

指導教員 主査 友添秀則 先生 副査 矢島忠明 先生

<本研究の動機>

私は早稲田大学バレーボール部に所属し、中学1年生から運動部活動でバレーボールを専門として今まで競技生活をしてきた。

中学校3年の時にサーブ権制からラリーポイント制にルール改正された。このルール改正によってアグレッシブなゲームとなり、多くの国でテレビ中継も行われるほど楽しいスポーツとなった。

ネットインサーブが許されサーブミスリスクが減ったおかげで、強烈なスパイクサーブを見ることができし、私たちのゲームでも強いサーブを打つようになった。ルール改正も定着してしまえばいいのだが、定着するまでの期間は、現場の人間は大変である。学校のクラブでは、チーム作りの時期が終わって、大会前に急にルールが変わりましたでは対応できない。リベロのルールも定着しつつあるが、急にリベロ制は廃止しますなんてことになったら、泣くに泣けないプレーヤーも出てくる。ルールの改正には、多くの問題があるにも関わらず、バレーボールという競技は、どんどん変化している。

これらのルール改正の大きな要因は、マスコミに非常に関係している。従来のサーブ権制では、試合の時間配分が読めずにメディア側からしたら大きな問題であった。他の番組との関係やCMのタイミングなど。実際に私達、学生の試合でも全日本インカレなどテレビ放映される試合では、テクニカルタイムアウトがあり、番組向けのルールとなっている。メディアのためにバレーボールのルールをこれほど頻繁に変えてもいいのだろうか。他の競技ではどうだろうか。ルールの変化によって新しい戦術は生まれたのだろうか。日本のバレーはどのように変わったのか。などたくさんの疑問が浮かんできた。

日本のバレーボールの衰退や人気の低下は、ルールの改正と何らかの関係があるのではないかと考えた。また、バレーボールの本来の姿は何だろうかという興味を持ち、本研究を行いたいと考えた。

<本研究の目的>

本研究の目的は、バレーボールのルール改正における経緯を明らかにし、ルールの改正が抱える問題を正しく捉えることによって、ルール改正によって生まれたメリット、

デメリットを明らかにし研究・考察する。また、それらの研究・考察から日本のバレーボールのあり方について述べると共に、バレーボールの本来の姿を明らかにすることによって、10年間続けてきたバレーボールの集大成になるようにしたい。

<本研究の方法>

本研究は、関連文献の購読による文献研究によって行う。具体的には、主に、バレーボールのルールに関する文献の購読を中心に考察を行い、バレーボールのルール改正の影響について明らかにし、今後のバレーボールのあり方や課題、バレーボールの本来の姿についても論じる。

<考察>

第1章 バレーボールのルール改正

第1章では、バレーボールの歴史やルール改正における変遷を明らかにし、ルール改正が及ぼした影響について考察する。また、ルール改正が行われた要因や背景がどのようなものであるか示す。

第2章 バレーボールのルール改正による功罪

第2章では、第1章で挙げられたバレーボールの歴史やルール改正の変遷を踏まえ、バレーボールのルール改正による功罪を明らかにしつつ、バレーボールのルール改正によって変化した戦術・戦略を考察する。

第3章 バレーボールの本来の姿

バレーボールの人気低下の現状と要因を明らかにしつつ、ルール改正がバレーボールの将来や本来の姿にどのように影響しているかを考察する。また、バレーボールの本来の姿を明らかにしつつ、今後のバレーボールのあり方について具体的に提案する。

結章

各章のまとめと共に、本論文全体のまとめを述べる。また、そのまとめを踏まえた上で、ルール改正に伴って失われたバレーボールの本来の姿について述べ、日本のバレーボール界の今後の課題等について検討する。